

新刊紹介

水野弘元博士還暦記念

新・仏典解題事典

中村 元
平川 彰 編
玉城康四郎

ここに「仏典」とは経・律・論・釈などによって代表される仏教聖典のこと、今日、大蔵經におさめられている仏典だけでも一万巻をはるかに超える膨大なものである。本書はこれらの仏典の中から重要なものを三〇〇あまり選び出して、歴史的、体系的に配列し、一般人にもわかりやすいように平易な解説をほどこした書である。

序章(仏教発展の概略)、第I章・一切經(パーリ語三藏、チベット大蔵經、漢訳大蔵經)、第II章・インド仏教(一一部)、第III章・チベット仏教(一六部)、第IV章・中国仏教(九一部)、第V章・日本仏教(九八部)、第VI章・インドの聖典(四〇部)の順序で述べられている。序章だけ読めば、仏教史の概略

を知ることができるし、また、各章を通読すれば、仏教の発展を歴史的に精細に把握できるように企画されている。

この種の事典には周知のように、一九三三年—三六年に出版された「仏書解説大辞典」があるが、十二冊に分かれている上、高価な為、なかなか個人で所有することはむずかしい。その点、「新・仏典解題事典」は手ごろであり、初心者にも、また学者にも座右の書として愛用されると思う。その上、前者が殆んど漢訳仏典に限られているのに対して、本書はパーリ語、サンスクリット、チベット語のみに伝わるものも、重要なものはすべてとり上げられている。「例えば、スッタニパータやマハーヴァスツ(大事)や菩提道次第論などがとり上げられている。」

また、中村元氏を初めとして、学界の一流学者の編集だけあって資料も新しい。(例えばインドのラーフラ・サンクリティヤヤーナがチベットで瑜伽論の梵文写本を発見し、バクスターチャルヤによって漢訳第一巻—第十巻に相当する部分が第一分冊として、一九五七年にカルカッタ大学より出版されたことの記述を見

てもわかる。)

先に山田龍城氏の「梵語仏典の諸文献」(一九五九年刊)が出て、資料が新しく豊富で、インド仏教を研究するものは非常に啓発されたと思うが、今度はインドばかりでなく、チベット、中国、日本というように多岐にわたって個々の仏典が詳細に解説されている。

今までも、こうした仏典全体の概観紹介として幾多のすぐれた労作が刊行されてきたが、手ごろな、まとまった解題事典のようなものは見当らないようである。幸い水野弘元博士の還暦記念事業として、「新・仏典解題事典」が出版されるので、この書がこうした要望にこたえられるものであることは、まことに喜ばしい限りである。

本書は最近よく用いられる横ぐみを採用しているため、文章の途中にサンスクリットやチベット語が出てきても読みやすいと思う。なお、目次のすぐ後に解題書目次がついており、また索引としては和文索引とローマ字索引がついていて大変便利である。

〔一九六一年刊、二五〇〇円、15×23cm
本文 三九四頁、春秋社〕
(舟橋尚)